

みんなで気を付けよう！横断歩道の渡り方

朝日小学校 松本 煌大

横断歩道を渡るとき、「危険な思い」をした経験は、ないだろうか。僕にはひやりとした経験がある。僕が5年生だった時、横断歩道を、後ろを見ながら渡っていた時のことだ。ものすごい速さの車が僕の後ろを通り過ぎて、一瞬ひかれそうになったことがある。こわい思いをしたこの経験から、小学生の交通事故数はいったいどれくらい起きているのだろうかと思いになり調べてみた。警視庁のホームページを見ると、驚くことに、令和4年小学生交通事故数は956件、令和5年には1,109件も起こっていた。また、1年間で約150件も交通事故数が増えていることが分かった。たった1年間で約150件も小学生の事故が増えていることに、これからも小学生の交通事故数がどんどん増えていくのではないかと思った。

誰一人、交通事故にあわないために、僕たちが普段からできることはどんなことだろうかと、次の3つのことを、今一度考え直し、実践していくことにした。

1つ目は、ふざけず、安全に渡ることを意識することだ。後ろを見たり、友達との会話に夢中になったりして歩かないよう、安全に十分気をつけて横断歩道を渡るようにしたい。

2つ目は、「右、左、右」と左右を確認し、手を挙げて横断歩道を渡ることだ。運転手に自分が渡ることを知らせ、周囲の安全をしっかりと確認して横断歩道を渡るようにしたい。

3つ目は、登下校中は、必ず黄色帽子をかぶることだ。遠くからでも僕の姿がわかるようにし、運転手の方にも安全運転を意識してもらうことが、大切なのではないかと考えた。

ずっと歩けない体になってしまうかもしれない。最悪の場合死んでしまうかもしれない。誰もが使っている横断歩道だからこそ、交通事故が起こる危険性がある。しかし、一人ひとりの安全意識を高めれば、交通事故が起こる確率は低くなるだろう。僕は、みんなの意識で交通事故数は減ると思う。だからみなさん、交通安全に気を付けて横断歩道を渡り、自分の命を自分で守っていきませんか。